

雑 録

日本産はごろもなゝかまど類

小 泉 源 一

ハゴロモナ、カマド(一名りくちうなゝかまど)は昭和四年の夏、陸中國下閉伊郡重茂村に於て牧野博士が農人の曳きたる馬脊上より採集されし珍品である、博士は其學名を *Sorbus rikuchuensis* MAKINO とし更に改めて *Crataegus rikuchuensis* MAKINO とされ又同時に *Crataegosorbus rikuchuensis* MAKINO も用意された。

かゝる形態のナ、カマドは歐洲にては *Sorbus* と *Aria* との間種、北米にては *Sorbus* と *Aronia* との間種に見るものにて要するに植物界のイタヅラで、かゝる間品は一代で滅亡するものに他ならず、本邦産のものは *Sorbus* と *Micromeles* との間品なるべしと思はるれど其證はなし、或は又 *Pourthiaea* か *Macromeles* との間品なりやも計り難し、リクチウナ、カマドの如きはナ、カマドとウラジロノキとの間品と想像せらる。

本邦にはハゴロモナ、カマド類は他に猶二品あり、陸中品と共に其花果發見されざるを以て; 未本類は *Sorbus* なるか *Crataegosorbus* なるか十分に之を知る能ず、故に前に倣て次の如く學名を命ずる事にする、而本類は皆ナ、カマドの複葉の上半に於ける各小葉片は皆癒合せし狀を呈するものなるは云ふまでもない。

(2) **デハノハゴロモナ、カマド** (*Sorbus uzenensis* KOIDZ. nov. *Crataegosorbus uzenensis* KOIDZ.)

本種はリクチウナ、カマドに類するも葉は小形にして裏面に黄白色の軟毛あり、不整鋸齒亦小にして小葉片の縁邊殆全部にあり、又小葉片の支脈も彼より鋭角をなして居る、羽前國の産なり、詳細は後報する事とする。

(3) **ヨサノハゴロモナ、カマド** (*Sorbus tangoensis* KOIDZ. nov.) (*Crataegosorbus tangoensis* KOIDZ.)

上の二種は *Crataegus* の氣分が全くなきにあらざれども本品に到りては少しも其氣分がない、上の兩品よりも薄質の葉を有し、葉裏に褐毛を生じてゐる、不整鋸齒は小葉片縁の下部にはない、先端亦鋭形なる事亦他二品と異なる、丹後國の産なり、詳細は後報すべし。